

第5回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<高校の部 大賞>

伝えたい気持ち

荘 憲太郎

私は一度高校を中退しています。学校が嫌になり友達が嫌になり家族が嫌になりました。すべてに反抗し自分が嫌になりました。高校をやめてから仕事をしました。朝早くから起きて仕事に毎日行くということはともしんどいことでした。中卒という学歴でこのまま仕事をするということは自分が思っていたよりも大変なことでした。中卒が悪いというわけではありません。でも私はもっとも自分にある可能性をためてみたいと思い、もう一度一年生からやり直して高校生になろうと決めました。仕事の休憩時間に勉強をはじめました。しかし、それだけではたりない気がしたので、自分が仕事で稼いだお金をつかい夜に塾へ行くようになりました。夜遅くまで勉強していると母が夜食をだしてくれたり、中学の時の友達が頑張れのメールをくれたりしました。嬉しいの言葉だけではあらわせないほど嬉しかったです。他にも親父や姉さん近所の人や友人の親、中学時代の先生いろんな人が心配してくれて、同時に応援してくれて、誰からも相手にされていないと思っていた自分がこんなにも愛されていることに驚いたし感動しました。自分にできるすべてのことをしてやろうと思いました。そして受験がおわり合格発表の日。私はこわくて発表を見に行くことができませんでした。すると友達のお父さんから電話がきて受かっていたぞと言ってくれました。そのとき嬉しくて涙をながしたことを覚えています。今まで自分にかかわったすべての人に感謝したいと思います。そして今、十七歳で高校一年生。苦しいことも楽しいこともあります。でも一年前とは違い何でも話せる友達がいます。何でも話せる家族がいます。そして自分を信じられる自分がいます。辛いこと苦しいこと思うようにいかないこともあるけど、すべての出来事を楽しみながら卒業に向かって頑張りたいです。私の伝えたい気持ちは生きてきておこったすべての出来事とすべてに人へのありがとうございます。